

## 週報

## こひつじ

第39巻 50号  
 大津キリスト教会  
 菊池郡大津町室 119  
 TEL 096-293-4470  
 FAX 096-293-4961  
 牧師 米村 英二

## 最後の言葉

イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」と言われた。それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます。」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。(ヨハネ一九の二六、二七)

## その一 地上の義務に忠実だったイエス

十字架上でイエスが最後に語ら 来られた。それが彼の最大の事業 された言葉は他の福音書にもあるが、であった。そしてそれは彼の死に ヨハネもまた書き残している。 よって完成された。

その一つは、母マリヤと弟子の したがっていよいよ死を迎えよ ヨハネに向けられたものだ。 うとしておられたとき、イエスの

まずマリヤに言われた。 感情は激しく高揚していたに違い 「女の方。そこに、あなたの息子 ない。その大事業が今や成し遂げ があります」 られようとしていたのだから。

それからヨハネに言われた。 ところがイエスがそのとき発せ

「そこに、あなたの母がいます」 られた最初の言葉は、意外にも母 その時から、この弟子は彼女を マリヤの行く末を案じてのものだ 自分の家に引き取った、とある。 った。

イエスは全人類の救いのために イエスは大きな仕事のただ中に

あつてさえ、地上の小さな義務に なかったのだ。

忠実であられたのだ。 イエスはお自分の使命について この事実は私たちに何を教える は早い時期にご存じだっただろう。 だろうか。 それにもかかわらず、それをすぐ

神の配慮は全宇宙的であると 時には個人的であるということだ。 には実行に移されなかった。

神は全体の福祉を考えると同時 父の亡きあと、家族の経済はず に、一人ひとりの福祉にも心を留 べてイエスの手にかかっていたか められる。どんな大きな仕事を抱 らだ。

えておられても、小さな取るに足 りない私たちのことをお忘れにな ことにはない。

神は一羽のすずめさえ顧みてく 成長するまで、そうなきつた。

ださるのである。 イエスが担っておられた使命に 比べて、家族を養うことは小さな

イエスが最後の瞬間に、母マリ ことではないかと、われわれは思 いうことだったのではないか。 ってしまう。

このようなイエスの心遣いは、 だがイエスは違った。彼にとつ どれほど私たちが慰めてくれるこ 奉仕だった。どんな大きな働きも、 とだろう。 小さなことの積み重ねなしにはあ

小さなものへの配慮はイエスの 得ない。それがイエスの信念だ 習慣だった。そうでなければ最後 った。だからイエスは家族のため

の瞬間に、その言葉が発せられる に長く労することをいとわれなか ことはなかっただろう。 ったのである。

彼にとつては、全人類を救うこ 私たちも、偉大な事業のただ中

と母への小さな配慮は一つだつ にあつてさえ、母のゆく末を心配

た。彼は偉大な仕事へ向かいつつ、 なさったイエスにならない、目の前 小さな仕事の手を休まれることは の小さな義務に忠実でありたいも

のだと思う。(続)

## 今日の礼拝

○第一礼拝は午前10時から、  
第二礼拝は午前11時から。

○教会学校は午前10時から。

○説教は坂田壮一さん。

## 先週の出席

第一礼拝が四八名、第二が三五名、合計八三名(男三一、女五二)子ども七名。合わせて九〇名。

## 案内

## 先週の礼拝

○司会は宮元隆博さん、奏樂は吉岡裕美さん。

○説教は第一サムエル記三章から、指導者としてのエリについて。

彼は自分の子どもの教育には失敗しましたが、彼の後継者である少年サムエルは正しく導きました。その教育はどのようなものであつたかについて語りました。

○合志真理名さんは大学三年ですが、休学してオーストラリアに一年の語学留学をすることになり、礼拝のあとで挨拶してくださいました。現地には、お姉さんの誉名さん家族がおられるので、よい交わりを持たれることでしょう。

○今日の礼拝後、教会及びこひつじ館の大掃除をしたいと思ひます。奉仕してくださいる方があれば、感謝です。

○元旦礼拝は三十一日の礼拝に続きますのでお休みとなります。

○米村牧師夫妻は、北海道のC F N J 聖書学院で奉仕するため一月四日に出発。帰熊は一月二十四日の予定。

○二〇二四年のローズンゲンは売り切れました。希望なさる方は熊本のキリスト教書店で奉仕されたい。

くださったので励まされました。

病院にゆけば、さまざまな持病をかかえ、治療に励んでいる子どもたちが多くいます。そんな子どもを持つ家族の気持ちが少ないわかれるような気がしています。

皆さんの子どもさんたちが健康であるように祈ります。

真紀へ、

リンちゃんのことを聞きました。突然のことで、君もつらいと思います。ステイプンも気を落とさないようにと祈っています。きっと何か意味があつて主がなさつて

## 牧師身辺

アメリカに住む長女の真紀から、彼らの下の娘のリンが、突然、一型糖尿病と診断され、生涯インスリン注射が必要だとの連絡があり、まだ一三歳の子どものもので、とても可哀想で、それを思うと、ぼくたちもつらい日々を過ごしております。

でも、本人も親たちも、しっかりとそれを受け止め、治療に励むつもりだとのことでしたので、ぼくたちは、ただ祈りをもって彼らを支えてゆくよりほかありません。

「体の異常を感じながら、理由がわからないでいたときより、今それがちゃんとわかって処置できるほうがずっと楽だ」と言うリンちゃんの勇気に涙が

支えてゆくよりほかありません。と祈ります。リンちゃんも、皆さんがともに祈つて下さることを祈ります。(真紀)